

製品名: ASPM ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07228**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	382kDa

抗原情報

遺伝子名	ASPM
別名	MCPH5
遺伝子 ID	259266.0
SwissProt ID	Q8IZT6
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 1230-1310

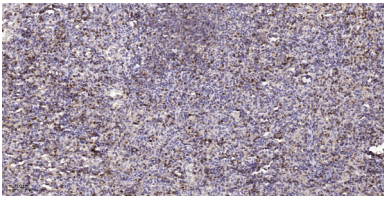
背景

この遺伝子は、ショウジョウバエの「異常紡錘体」遺伝子 (asp) のヒトにおける相同遺伝子であり、胎児神経芽細胞の正常な有糸分裂紡錘体の機能に必須である。マウスの研究でも、この遺伝子が有糸分裂紡錘体の調節において役割を果たし、特に神経発生の調節に

重要な役割を果たすことが示唆されている。この遺伝子の変異は、原発性小頭症 5 型と関連している。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2011 年 5 月]、疾患: ASPM の欠陥が原発性小頭症 5 型 (MCPH5) [MIM:608716] の原因である。真性小頭症または真性小頭症としても知られる。小頭症は、頭囲が加齢平均値より 3 標準偏差以上小さいことと定義される。脳重量は著しく減少し、大脳皮質は不釣り合いに小さくなっている。この顕著なサイズの縮小にもかかわらず、脳回パターンは比較的良好に保たれており、皮質構造に大きな異常は見られません。原発性小頭症は、他の症候群の特徴や重大な神経学的欠損がないことでさらに定義されます。この疾患は常染色体劣性遺伝形質として遺伝します。機能: 有糸分裂紡錘体の制御および有糸分裂過程の調整に関与すると考えられます (類似性に基づく)。神経発生の制御において重要な役割を果たす可能性があります。類似性: 2 つの CH (カルポニン相同性) ドメインを含みます。類似性: 39 の IQ ドメインを含みます。細胞内局在: 核-細胞質分布は、カルモジュリンの存在によって制御される可能性があります。

研究分野

画像データ



パラフィン包埋ヒト脾臓組織の免疫組織化学分析。1、ASPM ウサギポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C で一晚)。2、クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗原賦活化 (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、45 分)